

2011年8月5日

報道関係者各位

国立大学法人一橋大学
国立大学法人東北大学

一橋大学兼松講堂レジデントオーケストラ“国立シンフォニカー”が
東北大学で東日本大震災復興支援チャリティーコンサートを開催

一橋大学（学長 ^{やまうち} 山内 ^{すすむ} 進）は、昨年6月に創立135周年・国立移転80周年を記念して、一橋大学の卒業生（宮城敬雄氏 ^{みやぎゆきお} S43商学部卒）が代表兼常任指揮者を務め、若手精鋭で組織されるプロフェッショナル・オーケストラ“国立シンフォニカー”が「一橋大学兼松講堂レジデントオーケストラ」として兼松講堂を拠点に活動することを認め、昨年10月に創立記念コンサート、本年5月に第2回定期演奏会を開催しました。

この“国立シンフォニカー”が、このたびの東日本大震災の復興支援の一環として10月9日（日）に東北大学川内萩ホールを会場にチャリティーコンサートを開催することとなりました。

このチャリティーコンサートは、国立シンフォニカーの代表であり指揮者である宮城氏とプロの演奏家らの少しでも復興支援の力になりたいとの思いにより実現しました。

報道関係者の方々には、この国立シンフォニカーの思いの下で実現した東日本大震災復興支援チャリティーコンサートについて記事を掲載していただきますよう、お願い申し上げます。

一橋大学兼松講堂レジデントオーケストラ“国立シンフォニカー”
東日本大震災復興支援チャリティーコンサート イン仙台

- 1 日 時：2011年10月9日（日）15時00分～17時10分（開場14時15分）
- 2 会 場：東北大学百周年記念会館 川内萩ホール
- 3 演 奏：一橋大学レジデントオーケストラ“国立シンフォニカー”
指揮者 宮城敬雄
- 4 曲 目：交響曲第9番「新世界より」 ドボルザーク
交響曲第7番 ベートーヴェン
- 5 料 金：被災者無料招待 ペア500組（1,000席）
- 6 応募方法：「はがき」に必要事項を記入し、9月20日（消印有効）までに申込む

※ 詳細は別紙をご覧ください。

問い合わせ先
国立大学法人一橋大学企画・広報室
Tel 042-580-8030
Fax 042-580-8016

2011年8月5日

一橋大学兼松講堂レジデントオーケストラ “国立シンフォニカー”
東日本大震災復興支援チャリティーコンサート イン仙台

- 1 日 時：2011年10月9日（日）15時00分～17時10分（開場 14時15分）
- 2 会 場：東北大学百周年記念会館 川内萩ホール
- 3 演 奏：一橋大学レジデントオーケストラ “国立シンフォニカー”
指揮者 宮城敬雄
- 4 曲 目：交響曲第9番「新世界より」 ドボルザーク
交響曲第7番 ベートーヴェン
- 5 料 金：被災者無料招待 ペア500組（1,000席）

6 応募方法・応募締切

(1) 応募方法

「はがき」に次の①～④の必要事項をご記入のうえ、以下の「あて先・問い合わせ先」までお申し込みください。入場券は、9月末日までに送付いたします。

なお、応募者多数の場合は抽選とし、当選の発表は、入場券の発送をもって代えさせていただきます。

① 郵便番号・住所、 ② 氏名、 ③ 年令、 ④ 職業

(2) 応募締切：2011年9月15日（当日消印有効）

※ 申し込まれた「はがき」の個人情報、個人情報保護法に即して使用し、本チャリティーコンサートの実施以外の目的には使用しません。

7 主 催：社団法人国立シンフォニカー、一橋大学、東北大学、河北新報社

8 後 援：社団法人如水会、東北大学萩友会

9 義 援 金：当日は、会場内に義援金ボックスを設置して、義援金を募ることとしております。お預かりした義援金は、宮城県の教育や文化に役立ててもらおうよう寄付いたします。

（あて先・問い合わせ先
〒108-0074 東京都港区高輪4-24-40
国立シンフォニカー事務局仙台チャリティーコンサート係
電話 03-3443-1524

）

宮城敬雄

Yuki Miyagi(Conductor)

《Biography》

1944年大阪生まれ。一橋大学商学部卒業。50歳より指揮を白川和治、クルト・レーデル、ほかに師事、ホルストシュタイン、イヴァン・フィッシャー、オンドレイ・レナウト等に指導を受ける。

2000年スロヴァキア・フィルを指揮しヨーロッパデビュー。翌年同オケとウィーン楽友協会にてコンサートを成功させ、以降毎年、チェコ・ナショナル響、スロヴァキア・フィル、ハンガリー放送響、サンクトペテルブルグ響、ソフィア・フィルなどを度々客演指揮し、好評を博してきた。国内では、2001年サントリーホールにて新星日響（現・東フィル）と、その後来日したミュンヘン響、クロアチアの名門ザグレブ・フィル等と行った各公演はどれも大成功を収めている。

2006年にはスロヴァキアのピェスチャニー音楽祭に招待され、続いてオーストリアのブラームスゆかりの地でオールブラームスプログラムによる記念演奏会を行い話題となる。又、東フィル、宇野功芳氏とのジョイントコンサートを2年連続で行い大好評を博した。

2007年にはスーパーワールドオーケストラを指揮、同年7月にはサンクトペテルブルグ響とロシア“白夜祭”に出演しヨーロッパの聴衆を沸かせ大絶賛される。

2008年5月、ブタペストコンサートオーケストラ5月定期に初めて登場、チェコプラハ市スメタナホールでチェコ・ナショナル響“PROM IN PRAHA”に出演。国内においても北西ドイツフィル、レニングラード国立歌劇場管弦楽団他と協演し、12月一橋大学兼松講堂でのチャイコフスキー交響曲第6番「悲愴」の初演は情熱溢れる指揮によりオーケストラ、聴衆の共感呼び最高の“悲愴”と称されるほどの評価を得る。

この名演は世界で大きな話題となり2009年6月サンクトペテルブルグ響と“Musical Collection”音楽祭へ招かれ、本場ロシアの聴衆にも深い感銘を与え大成功を収めた。

又、ニュルンベルグ響とは2009年ドイツ公演に続き、大阪・東京でのコンサートツアーを大成功に導いた。2010年にはブルガリアのソフィアフィル夏の音楽祭“Music Week”に再度招かれ成功を収める。又、国内では2010年10月母校一橋大学が135周年を記念し、歴史的文化遺産の兼松講堂をレジデントとするプロフェッショナルオーケストラ“国立シンフォニカー”の常任指揮を務め、2回の定期公演を行い高い評価を得ている。2012年4月、ロンドンにてロイヤルフィルを指揮しイギリスデビュー、6月にはチェコプラハにてプラハ放送響、ブルガリア、ソフィアフィル定期が予定されている。その活動は益々世界的に高い評価を確実なものとしている。精神性の高い人生観と宮城ならではの美学から生まれる音楽は聴く者に新しい感動を呼び起こしている。